



山形全国研500人参加目標に

今年の全国学童保育研究集会（以下、全国研）は10月31日、11月1日に山形県で、11月15日にオンラインで開催されます。東北で全国研が開催されるのは2014年の岩手全国研以来、12年ぶりのことです。県連協では、この全国研に岩手県から500人の参加を目標に取り組みます。県内学童保育クラブ関係者の皆さまには、ぜひ、次のメッセージを受け止めていただき、多くの参加をお願いいたします。

大切な岩手の学童保育をよりよくするために！

「全国学童保育研究集会in山形」の参加について積極的な取り組みをお願いします

岩手県学童保育連絡協議会 会長 阿部 勝

日頃より、学童保育の拡充に向けてご尽力いただき誠にありがとうございます。

全国研は、保護者、指導員、運営者や自治体職員、研究者などが一堂に会し、1年に1回、2日間にわたって交流し、共に学びあう研究集会です。その全国研が、2026年10月31日及び11月1日に山形県において開催されます。県連協に参加するすべての関係者の皆さんが、私たちの大切な岩手の学童保育を、さらによりよくする最も重要な取り組みとして、この山形全国研に積極的にご参加いただくことを心から呼びかけるものです。

全国研は、「広く一般に開かれた研究集会」「学童保育の当事者の切実な願いにもとづいて開かれる当事者の研究集会」であり、なにより「参加者一人ひとりが主役の研究集会」であることを大切にしてきました。全国研での学びや交流が、「わが子にとって学童保育があってよかった」「専門職としていい仕事をしたい」という思いや願いを育み、参加者の確信につながり、それが学童保育の生活内容や施策を改善する力の源にもなっています。

岩手県では、東日本大震災から間もない2014年に、盛岡市と花巻市を会場に「全国研in岩手」を開催し、県内から2,048人も関係者が参加しました。現在、県連協や各地域連協は、苦勞しながらも岩手の学童保育の充実のために貴重な活動を継続して取り組んでいますが、このことは12年前に開催した岩手全国研が力になっていることは間違いありません。

2015年から本格施行された「子ども子育て支援新制度」により、学童保育をめぐる環境は急激に変化しています。学童保育が社会的に認知され補助制度が改善される一方で、国や地方自治体の規制が強化されるとともに、営利を目的とする企業参入が大きな問題となっています。

学童保育が大きな岐路に立っている今日、私たちは山形で開催される全国研を、岩手全国研と同様に、「自らの全国研」として位置づけ、次のとおり取り組んでいくことにしました。

（１）５００人の参加を目標に取り組めます

昨年の福岡全国研には、岩手から３７４人が参加（現地２１人、オンライン３５３人）しています。山形全国研では、県連加盟クラブはもちろんのこと、地域連協のない自治体や県連未加盟クラブにも積極的に働きかけ、５００人の参加を目指します。

（２）「指導員は全員参加」「保護者は支援の単位あたり複数参加」を目指します

放課後児童クラブ運営指針では、「放課後児童支援員等は、常に自己研鑽に励み、こどもの育成支援の拡充を図るために、必要な知識及び技能の習得、維持及び向上に努めなければならない」と規定されているとおり、指導員には、年齢や経験年数、雇用形態に関わらず不断の学ぶ努力が求められます。「生活づくり」の専門職にふさわしく、是非すべての指導員が受講するよう呼びかけます。

また、学童保育は、子どもをあずける保護者の関りがあってこそ充実したものになります。是非とも、各支援の単位ごとに複数の参加をめざしてください。

「指導員は全員参加」「保護者は、支援の単位あたり複数参加」が実現できれば、みなさんの学童保育がより充実したものになる大きな力になります。スローガンを正面から受け止めていただき、取り組んでくださるようお願いいたします。

（３）積極的に現地参加を

私は、現在東北地方で、全国研を開催できる組織を有している県連協は、岩手県と山形県しかないと考えています。つまり、岩手県以外で、最も近い場所で開催される全国研が山形全国研だということです。今回の全国研は現地とオンラインのハイブリッド方式で開催されますが、直接関係者が顔を合わせて学び交流し合う現地参加には、そこでしか得られない学びや気づきがあります。

県連協では、現地参加を促進するために、宿泊して参加される場合に、宿泊費補助として「ひとり１泊５，０００円」を補助する方針です。

現地参加は、交通費等の財政的負担も生じることから、全員が現地参加することは難しいとは思いますが、同じ東北で開催されるこの機会を最大限生かすために各地域、各クラブごとに積極的に現地参加をご検討ください。

（４）山形全国研を、「自分たちのための全国研」として

全国研は、１日目は全体講演や特別報告、２日目には、約５０もの専門的な講座や分科会が行われます。まさに、現在の学童保育に関わる者に必要なすべてを学び交流することができる日本最大の研究集会です。そのため、県連協では、毎年８月下旬に自主事業として開催する合宿研修会と共に、秋に開催される全国研にできるだけ多くの関係者が参加できるよう取り組んできました。

２０２６年度は、山形県で全国研が開催されるという機会を、岩手県内の学童保育の拡充に生かすために、夏の合宿研は開催せずに、山形全国研に集中して取り組むことにしました。２０１４年の岩手全国研の際も、今回と同様に合宿研は開催せずに、岩手で開催する全国研に集中して取り組んできた経緯があります。２０２６年度も東北の地で開催される山形全国研を、ぜひ「自分たちのための全国研」と位置付けて、積極的にご参加いただきますよう重ねてお願いいたします。